

視聴覚教育

NO 143

発行日 63. 6. 1
発行 岡崎市AVL
編集 広報委員会

コンピューター

リテラシー教育の推進を

現代はコンピューター時代といわれ、急速に社会の機能がコンピューター化されている。情報処理能力の育成、個別・個性化教育などコンピューターリテラシー教育の推進が今まで以上に強く要請されている。

岡崎市の小中学校へ初めてパソコンが導入されたのが昭和五十九年、それ以来年々充実され、昨年度小学校三十七校へ導入されたことにより、全ての小中学校にパソコンが設置されたことになる。

パソコンの活用は、ソフトしだいといわれているが、先生方の中には、パソコンアレルギーもあるし、市販のソフトは高価でなかなか購入できないなどの問題点もある。パソコンをより実りあるものにしていくためにも、講習会を通して多くの先生方に触れていただく機会を増やすことや、更に利用法の研究やソフトの開発・収集を今まで以上に重視していかなければならない。

パソコン研究の組織としては、アナライザー・パソコン利用委員会、現職教育視聴覚部・パソコン委員会があるが、それらの活動は次の通りである。

- アナライザー・パソコン利用委員会では
- ① 各学校・個人が持っているソフトを収集し、全小中学校での活用をはかる。
 - ② 多くの先生方が必要とする教師の仕事を助けるソフト、児童生徒の学習を助けるソフトの開発
 - ③ 初心者の先生方にパソコンを理解していただき、利用促進をはかるため「パソコン利用の手引き」(冊子・ビデオ)を作る、等

視聴覚部のパソコン委員会では

- ① 授業に役立つ、効果的なパソコンソフトの開発
- ② 市外・県外の先進校が開発したソフトの効果的な利用法の研究、等

また、先生方の自主的な研究、情報交換の場としてパソコンサークルがある。サークルでは有志の先生方が、自作のソフトを交換しあい、更に活用しやすいソフトに改良していくなど、自主的な活動を目差している。詳細は、竜海中 小川規博教諭まで。

最後に、今年度はパソコン推進事業が予算化され、また一部の中学校にパソコン教室の設置が計画されている。先生方と力を合わせて岡崎のパソコン教育を飛躍させたいと考えている。

〈視聴覚指導員 白井 正壯〉



部活動へのパソコン利用

矢作中学校 竹内昭博

「わあ、すごい。これ、やらせて。」

と熱心にパソコンの画面をのぞく生徒たち。

私は、卓球部の顧問でありながらずぶの素人。球の回転なんて全くわからず、本で読んだ知識を話すが、生徒たちはとても実際に使えるまでにはならない。そこで、パソコンのゲーム感覚で球種への対応力が身につかないかと考え、回転の入った相手からの返球をレシーブする簡単な練習プログラムを作成してみた。相手がドライブ、カット、左右横回転の入った球を適当に返してくるので、生徒はそれを、台上にまっすぐ返すための方向を入力するというゲームである。

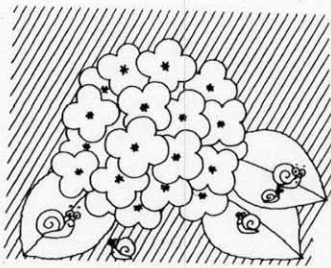
生徒たちは、初めは要領がわからず困っていたが、コツをつかんだ生徒が一人でもでると、みんながその生徒に聞き、その生徒は得意気に熱心に教える。二十回中十五回、十六回と、練習回数が増えるにつれ正解数が増えていき、最後には、

「もつと球のスピードを速くして。」

「もう一回だけやらせて。」

と、せがまれるようになった。

そこには、ふだんの練習にない生徒の笑顔が見られた。



学 校 教 育

- ① 学習の旅—京都—
- ② 学習の旅—奈良—
- ③ 交通安全だよドラエモン
- ④ 太陽と月
- ⑤ 黒潮物語
- ⑥ お母さんの卵焼き
- ⑦ はばたけ明日への瞳
- ⑧ よみがえる子どもたち
- ⑨ 春を呼ぶ瀬戸の小島
- ⑩ がんばったねお母さん

社 会 教 育

- ① 街(まち)
- ② ゴン太とよばれた犬
- ③ 父ちゃんの汗に乾杯
- ④ 隣の立場うちの立場
- ⑤ 他人の子を叱った私
- ⑥ 背負子日記
- ⑦ さよならぼくの犬
- ⑧ 交通事故その谷間
- ⑨ シンナー
- ⑩ きずな
- ⑪ 叱ることを考える

▼16ミリ映画フィルム貸出しベスト10 (昭和62年度)

ライブラリーだより



自作ビデオ教材より

小三社 いちご作り農家をたずねて (15分)

矢作町にあるビニールハウスをたずね、いちご作りの様子と他地域とのつながりを理解させる作品である。

小四社 消防署のしごと (14分)

市民の安全を守る消防署をたずね、日頃見ることのできないおじさん達のしごとを紹介する作品である。

小五社 内田さんのどう作り (11分)

東阿知和町の内田さんの経営努力を理解させ、変りつつある現代の農業の様子を理解させる作品である。